

研究 主題	英語を用いて自分の思いを伝え、相手との円滑なコミュニケーションを図ることのできる児童の育成 —児童の思いを基に設定した単元末の言語活動と「コミュニケーションブック」を活用した 振り返り活動を通して—
----------	---

第5学年外国語科学習指導案

指導月日 令和6年10月24日

所属校名 大崎市立古川第三小学校

氏 名 相 馬 梢

1 単元名 Unit5 「Let's go to the zoo.」(東京書籍 NEW HORIZON Elementary 5)

2 単元の目標

自分の希望が伝わるように相手に話したり、相手の思いを理解し希望に合った施設の特徴や場所を案内したりすることができる。

3 単元観

本単元は、小学校外国語科学習指導要領第2部外国語第2章第2節英語1目標(3)「話すこと」(やり取り)の「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」に基づいて設定されている。

本単元では、「施設や場所、道案内」をテーマにした活動を行う。相手がやりたいことや行きたい場所に応じて町の施設を案内することを通して、相手の意図をくみ取ってコミュニケーションを図ることのできる力を育成することを主なねらいとする。

Unit1からUnit3では、目の前の人との二人称の関係において、名前や誕生日、できることについて尋ね、互いの理解を深めてきた。Unit4では友達の家族や知人の紹介を通して、友達に関わる人々のことも含めて相手を理解するための学習を行ってきた。本単元では、それらの学習を踏まえ、初めて会った人とのコミュニケーションに焦点を当て、相手の思いや願いに寄り添って話をするための力を育んでいく。初対面の人と心の通ったコミュニケーションを成立させるためには、相手が困っていることや願っていることを親身に聞き取り、その思いに沿った提案や案内をする必要がある。よって、これまで培ってきた相づちや聞き返し、自分の経験や考えを伝えることなど様々な会話のスキルを生かしながら、相手を思いやってコミュニケーションを図る力を向上させるのに適した単元であると言える。

4 児童の実態〔第5学年1組29名〕

今年度前期の指導の結果、コミュニケーションに対する意欲の向上が見られた。児童の思いを基に単元末の言語活動を設定したことにより、外国語の学習を「自分のこと」として捉えるようになったことが要因と考える。また、感想や質問を伝えながら会話することにより、互いの理解や楽しい会話につながると気付いたと考える。また、意識調査1から分かるように、多くの児童が自分の思いをうまく伝えられない場面において英語で伝える努力をしている。しかし、「日本語で伝える」(29.6%)、「英語でも日本語でも言わない」

意識調査1（令和6年7月実施 n=27）

質問：伝えたいことを英語で何と言えばよいか分からないときどうしていますか。（複数回答可）〔単位：％〕

○：思いを英語で伝える努力をしている。

○教科書やPDで調べる（55.6％）。

○先生や友達に聞く（48.1％）。

○ジェスチャーを入れて話す（37.0％）。

○知っている英語で何とか伝える。（33.3％）

○インターネットで調べる（29.6％）。

○実物や写真を見せながら話す（7.4％）。

・日本語で伝える（29.6％）。

・英語でも日本語でも言わない(11.1％)。

(11.1%)という児童もいることから、自分の思いを伝えようとする意欲や思いを伝える技能の向上が望まれる。実際の会話で大切な「知っている英語で伝える」ことができている児童が33.3%に留まっている点にも注目する必要がある。

また、「コミュニケーションブック」に記録してきた英語表現を見ながら話すことができる児童が増えた。しかし、知識として定着させるまでには至っていない。さらに、意識調査2から分かるように円滑なコミュニケーションを図るために英語で質問ができると回答した児童は4月と比べて36.8%多い40.7%となったが、相づち、一言感想などの配慮ができる児童は3.1%少ない55.5%となった。

意識調査2から分かるように、英語で会話することが「好きではない」児童が40.7%いる点も注視する必要がある。その理由として児童は「英語が難しい」「言い方を忘れる」などと述べている。また、英語に苦手意識のある児童に共通しているのが、「相手の話に対して質問をしていない」という実態である。その要因として、英語力の課題と合わせて、相手意識が足りないことや何を質問してよいか分からないということが挙げられる。他教科の協働的な学習においても、友達に質問して理解を深める児童は、半数程度に留まっている。

意識調査2（令和6年7月実施 n=27）

質問【単位：％】 ◎とてもそう思う ○そう思う △あまりそう思わない×思わない	上段：7月(n=27) 下段：4月(n=29)			
	◎	○	△	×
①英語で友達や先生と会話することは好きですか。	29.6 20.7	29.6 34.5	29.6 44.8	11.1 0
②英語で相手と会話するとき、相手の話に言葉を返していますか。	18.5 6.9	37.0 51.7	40.7 41.4	3.8 0
③英語で相手と会話するとき、質問をしていますか。	18.5 0	22.2 3.9	33.4 40.3	25.9 55.8

5 指導観

以上の点を踏まえ、本単元では、児童の英語学習に対する苦手意識の軽減を図りながら、相手の話の意図を捉え、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう以下の点を大事にして指導に当たる。

(1) 児童が英語表現を定着させたり増やしたりするための支援の工夫

- ① 教師の模範会話において本時に生かせそうな英語表現を積極的に用いながら児童の興味・関心を引き付ける内容を吟味する。また、本時の基本語句を用いて自分の思いや考えを自由に話すことのできる言語活動を多く取り入れる。
- ② グループで作成した「コミュニケーションブック」から本単元で活用できそうな英語表現を精選し、各自の「ミニコミュニケーションブック」にまとめることにより、その中から自分で選んで話すことができるようにする。使うことができるようになった表現にシールを貼り、定着の度合いを可視化することにより、達成感を持って学習に臨むことができるようにする。

(2) 相手の話に応じて返答をすることのよさを実感させる働き掛けの工夫

- ① 対話表現について、一言感想や質問以外にも「繰り返し」や「確かめ」「自分のことを伝える」など多様性を持たせるために、模範会話や中間の振り返りにおける教師の言葉掛けを工夫する。
- ② 振り返りの項目の中に、「友達に言われてうれしかったこと」や「役立ったこと」を記述させ紹介することにより、次の表現活動への意欲の向上や学びにつなげる。

6 研究主題との関連

研究主題にある児童の姿に迫るため、以下の手立てを講じていく。

(1) 児童が伝えたいことを踏まえた単元末の言語活動と単元の学習計画の設定

① 相手の思いを聞く必要のある単元末の言語活動の設定

子供が喜ぶ町、本の好きな人が喜ぶ町、海の好きな人が喜ぶ町など、各グループでテーマを決め、それに合った町を作って友達（初対面の人の設定）を招待するという言語活動を設定する。相手の希望を詳細まで聞き取らなければ案内する施設を決定することが難しいため、適切な質問を考えて投げ掛け、相手の言葉を正確に理解する力が必要となる。

② 単元末の言語活動において必要なやり取りができるようにするための学習計画の設定

My dream town の魅力を伝えたり、相手の希望を丁寧に聞き取って案内したり、自分の思いや願いを適切に伝えたりするためにどのような学習が必要かを話し合い、学習計画を立てる。

(2) 振り返り活動の工夫と活用

① 円滑なコミュニケーションを図るための方法に関する振り返り活動

「一言感想」や「質問」「繰り返し」「確かめ」「自分のことを伝える」「簡単な英語に置き換えて話す」など、その時間で特に力を入れたいことを決め、授業の最後にその結果や効果を振り返る。また、円滑なコミュニケーションを図ることができた場面を取り上げ、グループや全体でそのよさを話し合うことにより、その気づきを次の言語活動につなげていく。

② 「コミュニケーションブック」と「ミニコミュニケーションブック」の活用

振り返り活動における表現上の気づきについては、グループの「コミュニケーションブック」に追記する。さらに、その中から特に自分が使えるようになりたい表現を個人の「ミニコミュニケーションブック」にも記入することにより、児童一人一人の語彙力を高めていく。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> Where is～? /Go straight for ～block(s). /Turn left(right). /You can see it on your left(right). 及びその関連語句について理解している。 <技能> 町についてよく知るために、町の施設の様子や町の施設がある場所についてのやり取りを聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、考えや気持ちを伝え合ったりする技能を身に付けている。	相手に自分の町についてよく知ってもらうために、町の施設の様子や場所について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	相手に自分の町についてよく知ってもらうために、町の施設の様子や場所について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時 7/8） 作：作品 や：やり取り 記：振り返りの記録

時	目標◆・活動○	評価			
		知技	思判表	態度	評価方法
0	単元末の言語活動の内容や単元の学習計画について話し合う。	記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。			
1	◆ALTや教材文のデモンストレーションを聞き、施設や場所、行き方などについて具体的な情報を聞き取ることができる。 ○単元末の言語活動と単元の学習計画を確認し、学習の見通しを持つ。 【Starting Out】町にあるものやその場所を聞き、教科書に記入する。 【Watch and Think】ALTや教材文の話を聞き、施設や場所、行き方を表すときどのような英語表現を用いるのかを考える。				
2	◆施設や場所、行き方についてのやり取りの表現に慣れる。 【Let's Listen 1】教材文の案内を聞いて、必要な情報を聞き取る。 ・各自「ミニコミュニケーションブック」を作成する。				
3	◆場所を尋ねたり、道案内をしたりすることができる。				

	【Let's Listen 2】教材の絵を用いて物の位置の表し方を知る。 【Let's Try 1】教科書の動物園図を使って道案内の練習をする。				
4	◆自分の地区（町）のおすすめの施設を紹介することができる。				
	【Let's Watch 2】【Let's Listen 3】教材の音声を聞き、おすすめ施設の紹介の仕方を知る。 【Let's Try 2】自分の地区（町）のおすすめの施設を詳しく説明する。	や			
5	◆自分たちの決めたテーマに合わせて、My dream town を作ることができる。				
	○グループごとにテーマを決め、そのテーマに合った My dream town を作り、それぞれの施設の特徴を確かめ合う。		作		
6	◆My dream town を用いながら相手の希望に沿った施設を案内することができる。				
	○1 単位時間に 4 グループずつ My dream town を紹介と案内をする。				
7	○案内する児童は、やり取りを通して相手の思いを汲み取り、希望に沿った案内ができるようにする。	や	や		行動観察
本時	○案内される児童は、どんな目的でどんな施設を案内してほしいのかが相手に伝わるように話し、案内された道順をたどって目的の施設の場所が分かるようにする。				
8	◆世界の標識や地図記号について興味を持って話を聞く。				
	【Over the Horizon】・世界の標識や地図記号について話を聞き、日本と世界の文化に対する理解を深める。 ・Unit 5 のまとめのテストを行う。			記	

8 本時の計画

(1) 目標

- やり取りを通して相手の思いを理解しながら、希望に合った町の施設を案内することができる（案内する児童）。
- どんな目的でどんな施設を案内してほしいのかが相手に伝わるように話し、案内された道順をたどって目的の施設の場所が分かるようにする（案内される児童）。

(2) 指導に当たって

① 相手の思いを聞く必要のある単元末の言語活動の設定

相手が何を求めて町に来たのかを聞き取らなければ具体的な案内を始めることができない状況設定をし、相手の思いを聞き、その思いに寄り添うことの必要性を高める。また、互いに心地よいコミュニケーションを図るために、相手を安心させるような表情や相づちなどにも配慮できるように声掛けを工夫する。

② 協働による振り返り活動の充実と活用

どのような表現でやり取りを行うかについて協働で考える場を設ける。そのことにより、自分が考えつかない表現に気付いたり、英語による会話に苦手意識のある児童が安心感を抱いたりできるようにする。

③ 「ミニコミュニケーションブック」の活用

言語活動をする前に、各自が作成した「ミニコミュニケーションブック」を用いて本時で活用できそうな英語表現を話す練習をする。

(3) 指導過程

[illegible]

	・誰が着るか聞いてみよう。Who wear? ○まだ不安そうにしていますよ。どうしますか。 ・不安に思う理由を聞いてみよう。Are you OK? かな。 ・道が難しいのかな。目印の建物も伝えよう。		師が問い返しを行うことにより、解決に導く。	
終 末 15 分	6 Look-back ○この動画のやり取りでよいところはどんなところだと思いますか。 ○思いがうまく英語で伝えられなかったとき、うまくいった方法がありますか。 ○今日のやり取りで、「友達に言われてうれしかったこと」や「役立ったこと」は何ですか。 7 Announcement 次回は、世界の実際の町の様子について学習します。	グ ル ー プ 個 別 一 斉	・児童が試行錯誤しながら思いを伝えていた姿を動画や口頭で紹介することにより、伝えようとする努力を価値付けする。	

(4) 本時の評価

観点	評価規準（B）	十分に満足できる（A）	努力を要する児童（C）への手立て
思考・ 判断・ 表現	相手の思いを聞き、希望に合った施設やその場所を案内することができる。自分の希望の施設を相手に伝え、案内に従って場所を特定することができる。	相手の思いについて知りたいことを問い返ししながら、希望に合った施設の特徴やその場所を分かりやすく案内することができる。自分の希望を詳しく伝え、その施設の場所を確実に理解することができる。	本単元で活用できそうな英語表現を厳選し「ミニコミュニケーションブック」にまとめて練習を重ね、その表現を活用できるようにする。
知識・ 技能	Where is～?/Go straight for ～ block(s)./Turn left(right). /You can see it on your left(right).などの表現の意味を理解し、使うことができる。	目的の場所について、Go straight for～block(s)./Turn left(right). /You can see it on your left(right).の表現の他にnear～やby～を用いて目印となる建物を伝えたり、聞いて理解したりできる。	友達と一緒にブロック数を数えたり、左右を確認したりしながら、短い言葉で道案内を行ったり聞いたりできるようにする。

(5) 準備物

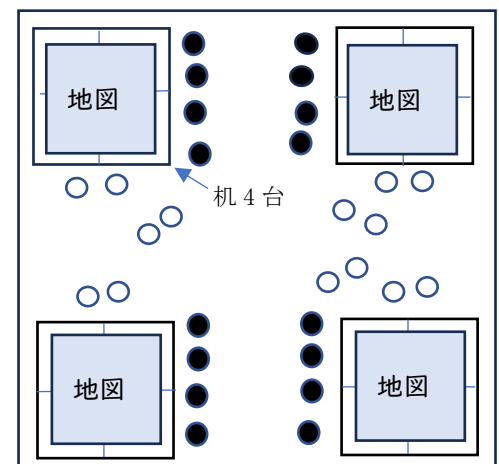
① 教師：デジタル教科書、タブレット

② 児童：My dream townの地図（模造紙）、教科書、ピクチャーディクショナリー、コミュニケーションブック（グループ）、ミニコミュニケーションブック（個人）、英語ファイル（足跡カード）

(6) 板書計画

Unit5⑥⑦ My dream town を案内しよう めあて 案内する人 ①相手の思いを理解しよう。 ②希望に合ったところを案内しよう。 訪問する人 ①「なぜ」「どこに」行きたいのかが伝わるように話そう。 ②案内された道を正しくたどろう。	H: What's the matter? A: I'm hungry. H: What do you want? (質問) A: I want pizza. H: We have a nice restaurant. You can eat pizza. A: Sounds good. Where is the restaurant? H: Go straight for 1 block. Turn right. You can see it on your left. A: I see. Thank you. H: You're welcome. Have a good lunch. (一言)
--	---

(7) 場の設定



●案内する人 ○訪問する人